



公開授業紹介

11月4日(水)～13日(金)にかけて公開授業を行いました。今年度は新型コロナウイルスの影響から、校内のみの公開授業となりましたが、多くの先生方が授業を公開して下さり、大変充実したものになりました。今回の通信では、授業を公開された先生方の感想を掲載させていただきます。

国語

◆2-7 現代文「ころ」 田中里奈 教諭



今年、2年国語科の試みとして、小説「ころ」のレポートを書くという単元を構想し、各クラスで実践してきました。今回の公開授業では、その単元の中の一つの取り組みとして、レポートの評価基準を自分たちで見直す、という活動を行いました。既に示されている評価基準を改良するという活動は、生徒達にとって難しいものだったと思いますが、よく考え、積極的に話し合っていて感心しました。目指すレポートの方向性が前よりも分かったという感想が多くあり、また私自身、生徒がレポート作成において、何を重視しようとしているのかを知るきっかけとなり、評価基準を生徒とともに練り直す意義を実感できたように思います。

理科

◆2-1 理数物理「波の干渉」 小原崇裕 教諭



実験やグループワークを通して、波の干渉現象について学びを深める授業を行いました。タブレット端末が導入された際にはどのような授業展開になるかを併せて考え、授業実践報告の場でタブレット端末を活用する新たな授業案を打ち出しました。新たな授業スタイルについて深く探究することができたため、良い挑戦だったと思っています。今後は今回考えたタブレット端末を活用する授業案を実践し、より生徒に深い学びを与えるような授業ができるように、授業改善に挑戦し続けたいと思います。

数学

◆2-1 数学B「ベクトルの演習」 松村剛 教諭



今回は、「解答見ながら学習」であっても、①各自の不明な点を確認し、②自分なりの解説(要点)を書き込み、③グループで話し合うことで、理解を深め効果的な学習につながるという体験的な授業を実践しました。昨今は、教科書を読めない(理解できない)生徒も増えていて、「解答」を読めなくなっているのが現状です。入試問題等の総合問題に対応するためには、「解答見ただけ学習」では不十分です。授業でも、プロジェクトを見るだけではまずい。まずは、「解答見ながら学習」から個別最適学習に取り組もうというメッセージです。

◆1-1 数学I「生物多様性の評価」 福島健一郎 教諭



中高連携の公開授業であり、特に「グループ活動を通して課題に粘り強く取り組むことができる」という目標を掲げて実施しました。生物多様性を数値化するというオープンな課題設定に対して、グループ内で既習事項をどのように適用するのか試行錯誤する様子が十分に見られました。授業の振り返りの中でも「お互いの意見を尊重し、共有すること」「一度失敗しても、うまくいくように少し変えて再挑戦すること」など、課題解決の際に必要な姿勢についての気づきが自然とあったようです。身の回りのことにもっと課題意識を持ち、数学を課題解決の手法の一つとして積極的に活用したい、と生徒が思ってくれるような授業づくりができればと思っています。

◆1-7 数学II「パスカルの三角形と二項定理」 今川大輔



教科書、参考書、スマートフォン、先生のどれかを利用して良いので、二項定理とパスカルの三角形、またはその発展的な内容について説明せよという課題をレポート形式で出題しました。生徒はうまくスマートフォンを利用し、教科書以上の内容について調べてまとめており、興味・関心を引き出すという面で良かったと思います。また、インターネット上の情報と教科書とを比較して、教科書が端的によくまとまっていることに気づき、教科書の大切さを再認識していた生徒もいました。

◆1-1 現代社会

「新型コロナウイルス感染者への誹謗中傷の原因」



相道孝志 教諭

基本的人権を考える学習の一環として、「新型コロナウイルス感染者への誹謗中傷」の事例をもとに討論形式の授業を行いました。岩手県で初の感染者が出たときに、感染者が出た企業に対して誹謗中傷の電話やメールが殺到したことを伝える新聞記事を読み、各自が5分間で「誹謗中傷が起こる原因」について考えたことを文章に書きました。その後、6人ずつの班ごとに、「誹謗中傷が起こる原因についての仮説やその根拠」について討論を行いました。討論の後、各班で話した内容を黒板に書き、各班の代表者が説明を行いました。仮説としては、「日本人の集団主義による少数者への排除」「匿名の立場で言いやすい」「自粛によるストレスの発散」などが出されました。この問題について議論することで、日本人の国民性や日本社会の特徴について、各自の考えや理解が深まったと思います。

◆2-1 地理B「世界の農業」 森島郁夫 教諭



特に公開授業を意識したものではなく、①パワーポイントを終始活用し、スライドで授業の道しるべを示しながら、教師がそれに肉付けをする授業 ②教師の経験を活かしながら、生徒に様々な事象について、そうなった背景や要因について考えさせる授業 をやってみました。具体的には、私自身の日々の「農作業」について、その様子と、作業をしながら考えていることを写真と私の「つぶやき」を通して表現し、日本の農業の現状と問題点を生徒に考えさせる授業内容にしたつもりでした。

ほかの先生方のように、問いを立ててそれについてグループで共有・などは、なかなかできませんが、今後も授業改善に取り組んでいこうと考えています。

◆1-2 古文×地学「古文に見る天文」



辻崎千尋 教諭
×
奥村貢 教諭

古典作品には「月」の表現がたくさんできます。「月」の役割を確認した上で、古文『土佐日記』『帰京』に出てくる「月」の形を理解することが本時の目標のひとつでした。本来、中学校の既習知識でなんとなくわかるようなのですが、図を書いて説明を求めたときに、もう少し論理性がほしいところでした。国語の授業でつけるべき力です。

そして、もうひとつの目標は、探究的な学びとして「古典作品では月はたくさん扱われるが、なぜ星を扱った作品は少ないのか」という問いを考えられるかという点でした。最後に「日本には星の文化がなかったから」という答えが出ましたが、本当かどうか、答えはそれしかないのか、続きは生徒の課題としてお任せしてみました。生徒の興味関心をひきつけ、次年度の課題研究のテーマにつながるような、魅力的な教材を発掘して授業をデザインしていきたいです。

教科横断型②

◆1-7・8 美術I×物理「私の見付けた風景」



伊藤裕貴 教諭
×
小原崇裕 教諭

油彩風景画の主義・様式について探究し自分の表現に生かすという題材ですが、今回は印象派における光のとらえ方について、物理との教科横断的視点から理解を深める授業を行いました。美術の教科書にも光の混色についてのページがあり、これから物理の学びと重複していく部分について、①光は電磁波の一種であること、②白色光はいろいろな色の光の集合であり、逆に三原色を混ぜると白色になること、などを実験を交えて動画で解説していただきました。これまでは自分で説明していましたが、やはり物理の先生が実験をしながら解説してくれると説得力が違うなという印象でした。印象派以降の諸派が点描による視覚混合によって明度・彩度を落とさないように描いたことに対する理解も深まり、自分の表現に繋げることができた生徒も多くいたように思います。

第5回PT会議より

11/25(水) 15:50～第5回のPT会議が開催されました。今回は校外の先生方にもお声がけしたところ、県立高校から6名、教職大学院から3名、大学教授1名の方が参加して下さいました。内容は、田中里奈先生と松村剛先生から11月の公開授業の報告、伊藤裕貴先生の実践を参考に美術との教科横断について考える研修を行いました。少し予定時間をオーバーしてしまうほど先生方の報告や議論が盛り上がり、大変有意義な時間でした。

